

福島県砂防ボランティア協会

設立二十周年記念～これまでの歩み～



平成29年2月



「設立二十周年記念

「これまでの歩み」の発刊にあたって

福島県砂防ボランティア協会 会長

雨宮 宏文

会員の皆様には、日ごろより本会の運営にご尽力を賜り心より御礼を申し上げます。

さて、この度福島県砂防ボランティア協会「設立二十周年記念～これまでの歩み～」を発刊することになりました。当協会の設立は、平成9年2月に「福島県砂防ボランティアの会」が発足されたことに始まります。

当時は、阪神・淡路大震災から二箇年が経過し、現地の復興が進むなか、震災直後より食糧・物資配給、医療・福祉等のほか多方面にわたるボランティア活動が継続的に行われ、砂防分野における活動の効果も着実に現地復興の足がかりとなり、社会全体への認識の高まりとして全国各地へ広がる契機となりました。

このような状況で本県の砂防ボランティアは、その趣旨にご賛同いただいた砂防課OBの先輩方の熱意の結集により誕生し、そして、現在もその意思は着実に受け継がれております。

近年、大規模な災害が全国的に頻発しており、そのたびに自然災害の猛威を痛感させられ、同時に土砂災害から人命を守るための活動の重要性を再認識しております。

また、防災意識の重要性が社会全体の課題として叫ばれる中、我々砂防ボランティアの普及啓発活動に対する周囲の期待と関心もますます高まっている現状にあります。

当協会では、これまで東北地方太平洋沖地震による土砂災害危険箇所の緊急点検をはじめ、台風や前線による豪雨等により毎年のように発生する土砂災害への備えとして、「砂防施設や土砂災害危険箇所の点検」の実施や小・中学校や各種施設で実施した「ふるさと安全たんけんスクール」での啓発を行うなど、平常時から地域社会の安全を守るための多様な活動を精力的に行って参りました。

今後ともこれまでの活動の実績を礎として、これからの地域社会への期待とニーズに貢献すべく我々の知識と経験を生かした活動を会員の皆様とともに継続して参りたいと考えております。

最後に、本誌がこれからの当協会活動に少しでも役立てられれば幸いです。

平成29年2月



福島県砂防ボランティア協会設立二十周年に寄せて

福島県土木部長

大河原

聡

このたび、福島県砂防ボランティア協会が設立20周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より本県土木行政の推進に格別の御支援、御協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

貴協会が平成9年に設立されて以降、今日に至るまで土砂災害防止に関する啓発活動、砂防関係施設や土砂災害危険箇所の調査点検をはじめ、様々な活動を通じて地域社会の安全確保に大きな役割を果たされてこられました。特に東日本大震災時においては、震災直後の混乱期の中にも関わらず、各建設事務所と連携して土砂災害危険箇所の緊急点検を実施いただき、二次災害の防止に大きく寄与されました。このような活動に対し深く敬意を表するとともに改めて感謝申し上げます。

さて、東日本大震災から間もなく6年が経過しようとしています。この間、インフラの復旧も進展するなど、これまでの取組は着実に成果となって表れてまいりました。

今後とも本県土木部では、「一日でも早く県土の復旧・復興を成し遂げる」という復興理念の下、県民が復旧・復興の進展を実感できるよう各種事業を着実に進めるとともに、県民生活の安全・安心を最優先に活力に満ちた「新生ふくしま」の創造に向け、一丸となって積極果敢に取り組む考えであります。

全国的にも大規模な自然災害が頻発している昨今、災害発生後の対処は勿論ですが、地域の防災に対する住民一人ひとりの意識高揚を図るための取り組みが大変重要であります。貴協会の活動は、災害時のみならず平常時から多岐にわたるものであり、住民の防災意識の向上と災害の未然防止に繋がる取組として意義のあるものであります。これまで積み重ねた技術や知識を生かし、地域の安全確保に更なる貢献をされますことをご期待申し上げます。

結びに、貴協会の更なる発展と関係各位のますますのご健勝をお祈りいたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

目 次

「設立二十周年記念～これまでの歩み～」発刊にあたって

福島県砂防ボランティア協会 会長 雨宮 宏文

福島県砂防ボランティア協会の設立二十周年に寄せて

福島県土木部長 大河原 聡

第1章 砂防ボランティア協会の概要

- 1. 砂防ボランティアの成り立ち 1
- 2. 設立の状況 1
- 3. 砂防ボランティアの活動 2

第2章 砂防ボランティア協会の組織

- 1. 会員の推移 3
- 2. 組織体制 4
- 3. 歴代役員一覧 5
- 4. 情報連絡体制 6

第3章 活動の記録

- 1. 活動内容と砂防における主な事象 7
- 2. 主な活動記録 10
 - 土砂災害危険箇所及び砂防施設点検
 - 東日本大震災時の緊急点検
 - ふるさと安全たんけんスクール

第4章 会員からのことば

- 1. 歴代会長より 30

《 資 料 》

- 歴代会員名簿 38
- 福島県砂防ボランティア協会規約、施行細則 42

【表紙】

写真上から「H21土砂災害危険箇所の点検調査」、
「H18ふるさと安全たんけんスクール（堀越小（田村市）」、
「H26講習会」

第1章 砂防ボランティア協会の概要

1. 砂防ボランティアの成り立ち

砂防ボランティア活動のスタートは、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災まで遡ります。

地震発生後、建設省からの呼びかけにより全国各地から346名の砂防関係技術者が被災地に赴き、1100箇所以上の土砂災害危険箇所を点検し、危険度を判定、その結果を関係機関へ連絡することにより二次災害防止に大きく寄与しました。組織的に行われた砂防ボランティア活動は、これが最初と言えます。

また、阪神・淡路大震災の際、多くの防災ボランティアが活動しました。震災後に大改訂された「防災基本計画」（平成7年7月）には、防災ボランティア活動が明記され、これを受け同年8月に改訂された「建設省防災業務計画」には「砂防ボランティア」、「斜面判定士」を含む「ボランティア活動に対する支援」や「ボランティアの育成・活用」が盛り込まれました。平成7年が「ボランティア元年」と呼ばれるのは、このような理由からです。

砂防ボランティアは、様々なボランティア活動のうち、特に「土砂災害から地域住民を守るため、その意欲があり、また砂防に理解や知識のある人々のボランティア活動の総称」と定義づけることができます。

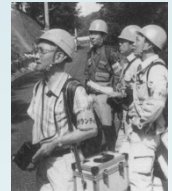


出展：阪神・淡路大震災『1.17の記録』（神戸市）

2. 設立の状況

砂防ボランティアが、相互に連絡をとりあったり、研修活動等に取り組むため、また、砂防関係の行政組織の支援等を得るためには、それぞれの地域ごとに組織化が図られることが望まれました。そのため、各都道府県単位または地域ごとに「砂防ボランティア協会」等として組織化が図られました。平成28年11月現在、71団体、6,144名の会員数となっています。

福島県では、平成9年2月「福島県砂防ボランティアの会」として発足し、当時の会員14名により活動がスタートしました。



出展：阪神・淡路大震災誌（兵庫県）

福島県砂防ボランティアの会 設立趣意書

阪神大震災から二箇年が経過し、現地では日々復興が進められております。

この阪神大震災では、震災直後より多方面にわたりボランティア活動が、大規模かつ継続的に行われ、その効果が十分に発揮されたところであります。

これを契機として、全国各地にボランティア活動に対する認識が高まり、豪雨や地震等による土砂災害から地域の安全を守る「砂防ボランティア」の組織化が全国に広がっております。

なかでも、地震などによる大規模災害時には、土石流や地すべり、がけ崩れなどの二次災害の発生を未然に防止するため、早急に土砂災害危険箇所の状況を点検し、危険度の判定ができる専門知識を有する人材が必要とされます。

本県においても、土石流危険渓流が1,118箇所存在し、常に土砂災害による危険にさらされている現状にあります。

このような状況のなかで、砂防に理解のある人や、大規模災害発生時の二次災害防止のために土砂災害危険箇所の点検や判定のできる人が「砂防ボランティア」として活動しやすい体制を整えるために「福島県砂防ボランティアの会」を設立し、土砂災害から県民の生命や財産を守り、もって県民の福祉に寄与するものである。

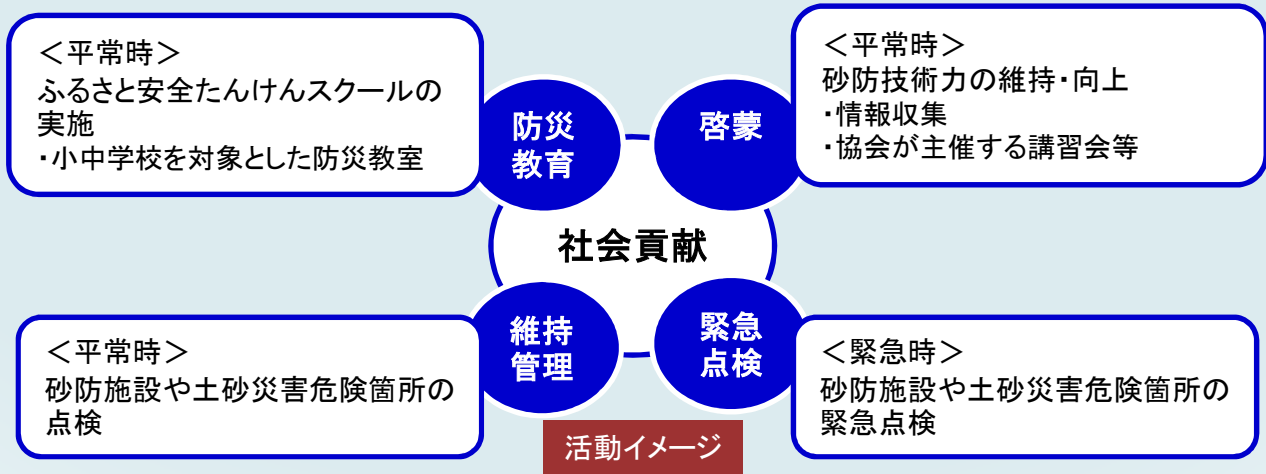
平成9年2月27日

福島県砂防ボランティアの会

3. 砂防ボランティアの活動

平常時は、「土砂災害に関する情報収集、情報提供」、「砂防関係施設、土砂災害危険箇所等の日常点検」、「土砂災害防止を目的とした啓発活動（小中学生を対象とした出前講座：ふるさと安全たんけんスクール）」などが行われています。また、災害時には、「土砂災害危険箇所等の緊急点検（二次災害防止）」などの活動が行われています。

平成28年12月現在、県砂防経験者OB77名の専門会員と3社の賛助会員で組織されており、土砂災害に係る知識と経験を活かした活動を通じて、土砂災害から県民の生命や財産を守ることはもとより、土砂災害防止に関する県の砂防行政にも様々な形で貢献しています。



「斜面判定士」の認定・登録－砂防技術力の維持・向上のための取組み－

土砂災害の危険箇所を日常または災害時に巡視・点検するためには、一定の土砂災害に関する知識と経験を有することが重要です。都道府県砂防ボランティア協会会長が推薦する一定の要件に該当した方々が斜面判定士として認定・登録されています。

平成28年12月現在、73名が登録されています。

【福島県砂防ボランティア協会】

会長が推薦する斜面判定士推薦内規

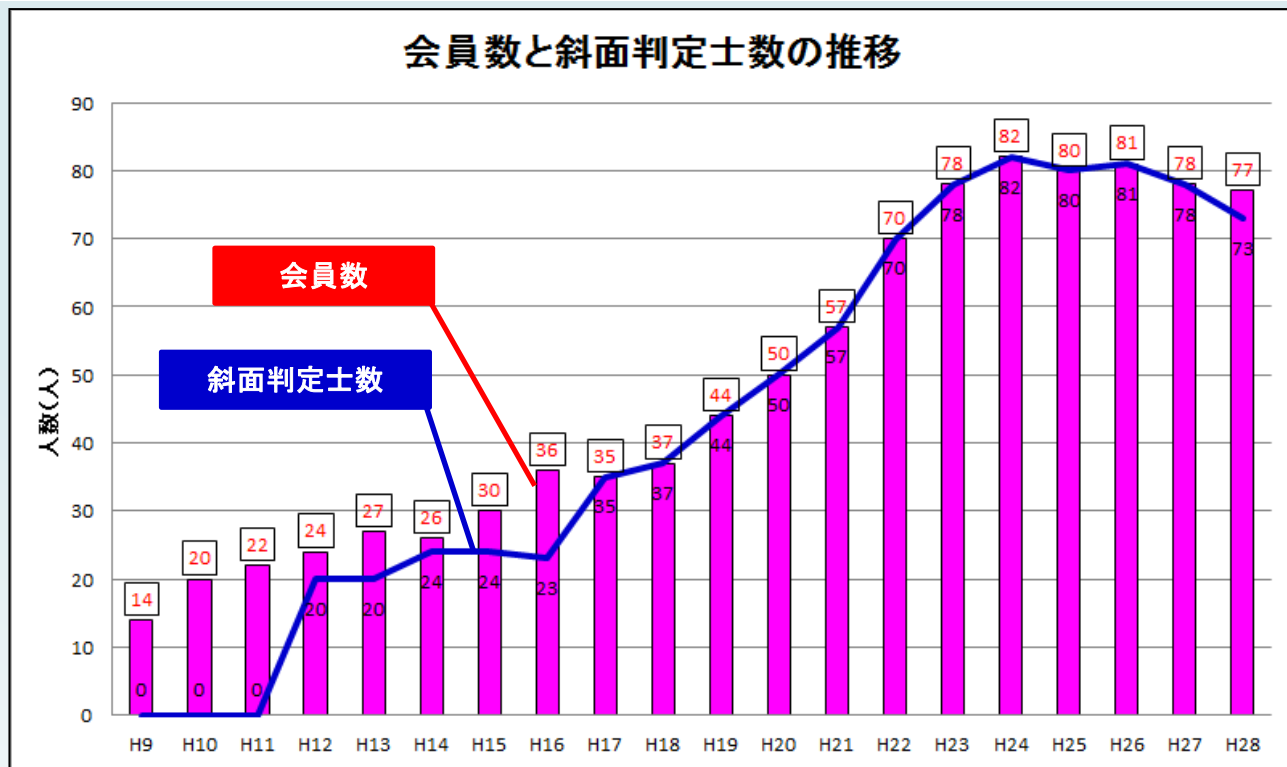
- 1 会長推薦を希望する者は、斜面判定士会長推薦申込書（様式-2）により、会長に推薦を申請するものとする。
- 2 会長は推薦申請書を審査のうえ役員会に諮り、推薦を決定したときは、砂防ボランティア全国連絡協議会長に、斜面判定士として推薦する。会長は斜面判定士として認定された者に通知し、斜面判定士として登録する。
- 3 会長が斜面判定士として推薦できる者は、所定の講習を修了し、以下のいずれかに該当する者とする。
 - (1) 概ね5年以上砂防関係業務の経験を有し、危険箇所等について相当程度の技術判断が可能な者とする。
 - (2) 国及び福島県土木部の技術職員として20年以上（国及び福島県の土木部技術者と同等の経験年数を含む）勤務し、砂防事業、地すべり事業、急傾斜地崩壊対策事業等の砂防技術に精通した者とする。
 - (3) 民間企業の技術職員として20年以上勤務し、砂防事業、地すべり事業、急傾斜地崩壊対策事業等の砂防技術に精通した者とする。
 - (4) 民間コンサルタントに10年以上勤務し、砂防事業、地すべり事業、急傾斜地崩壊対策事業等の設計解析業務に従事し、砂防技術に精通した者とする。
 - (5) その他、上記と同等以上の経験者とする。

第2章 砂防ボランティア協会の組織

1. 会員の推移

福島県の会員数推移(平成28年11月現在)

福島県砂防ボランティア協会	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	全国平均
会員数(人)	14	20	22	24	27	26	30	36	35	37	44	50	57	70	78	82	80	81	78	77	101
斜面判定士数(人)	0	0	0	20	20	24	24	23	35	37	44	50	57	70	78	82	80	81	78	73	55
登録者率(%)	0	0	0	83	74	92	80	64	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	95	54.5



福島県砂防ボランティア協会賛助会員(平成28年11月現在)

会社名	代表者(入会時/現)	入会年月日	退会年度
大竹測量設計(株)	大竹徹也/長谷川和利	平成11年 6月18日	
(株)野地組	野地達夫	平成11年 6月25日	平成24年
田中建設(株)	田中清一郎	平成11年11月29日	平成24年
松田測量設計(株)	松田圭一	平成15年11月17日	平成21年
(株)みちのく法面	長澤教夫	平成15年12月 2日	平成20年
国土防災技術(株)福島支店	青木朋幸/熊井直也	平成16年 7月26日	
菅野建設工業(株)	菅野忠男	平成20年 8月 1日	平成21年
(株)郡山測量設計社	渡邊一也/野中春夫	平成21年 7月 9日	

全国の砂防ボランティア協会等の設立状況(平成28年11月現在)

団体数	会員数	斜面判定士数
71	6,144	2,767

会員数と斜面判定士数の全国比較(平成28年11月現在)

(全国)

(北海道・東北)

都道府県協会	会員数(人)	斜面判定士数(人)	登録者率(%)
1位	370(山口)	190(長野)	100(大分)
2位	335(長野)	169(鹿児島)	95(福島)
3位	267(千葉)	151(千葉)	90(秋田)
⋮			
福島県	77(29位)	73(11位)	

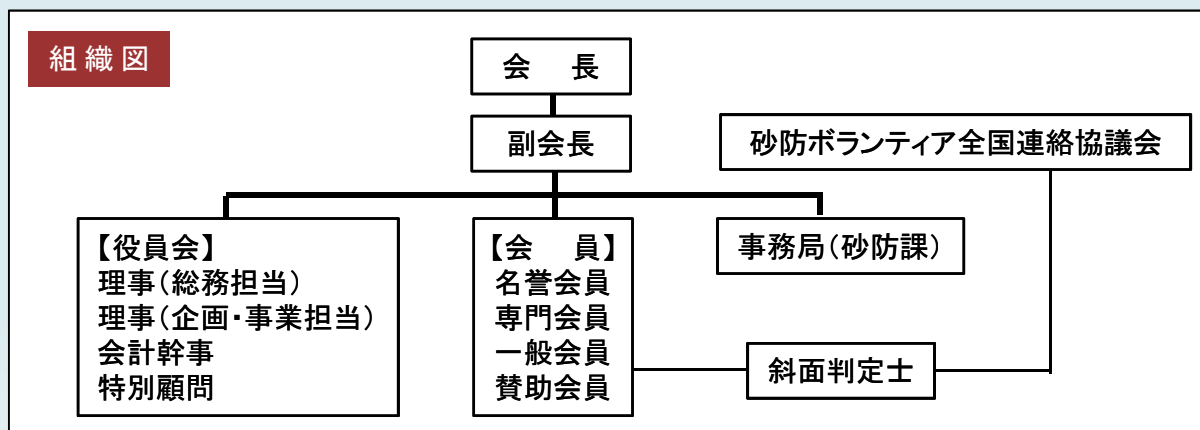
都道府県協会	会員数(人)	斜面判定士数(人)	登録者率(%)
1位	109(宮城)	94(宮城)	95(福島)
2位	108(山形)	73(福島)	90(秋田)
3位	106(岩手)	69(秋田)	86(宮城)
⋮			
福島県	77(5位)		

2. 組織体制

(会員)

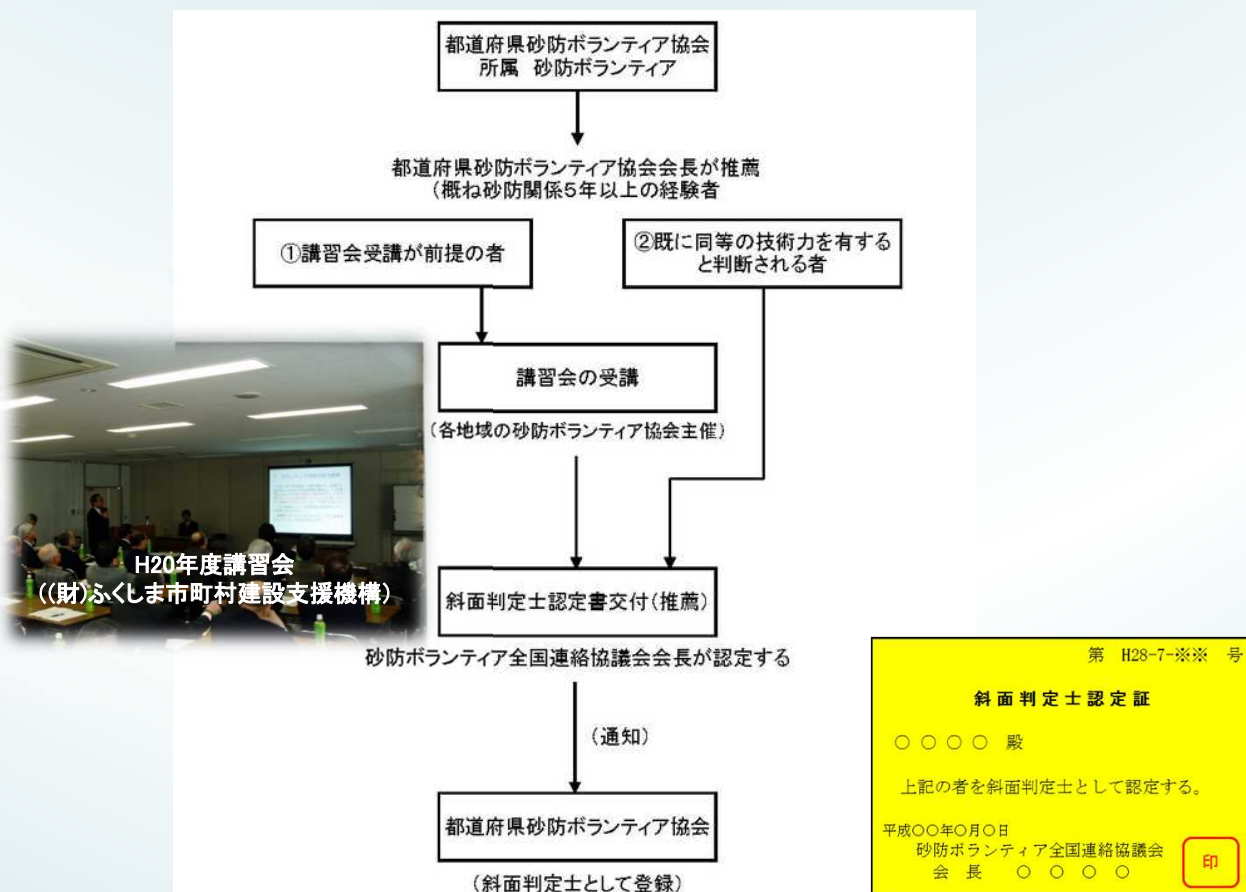
本会の会員は、土砂災害防止のため、真のボランティア精神に基づき、本会の趣旨に賛同した名誉会員、専門会員及び一般会員並びに賛助会員とする（「福島県砂防ボランティア協会規約・同細則」による）。

- (1) 名誉会員は、長期にわたり本協会への貢献が高く、会長が推戴する個人とする。
- (2) 専門会員は、本会員のうち土砂災害に関する専門的な知識を有する個人とする。
- (3) 一般会員は、諸活動に参加する個人又は団体とする。
- (4) 賛助会員は、諸活動を支援する法人又は団体とする。



(斜面判定士)

本会の会員のうち、所定の講習を修了した者、若しくは同等以上の技術力を有し会長が推薦する者は、砂防ボランティア全国連絡協議会会長の認定を得て、斜面判定士として登録する（「会長が推薦する斜面判定士推薦内規」による）。



第3章 活動の記録

1. 活動内容と砂防における主な事象

年 月	福島県砂防ボランティアの活動内容	砂防における主な事象
H 8年		<p>1月17日 阪神・淡路大震災が発生</p> <p>4月 1日 滝坂地区（西会津町）で直轄地すべり事業着手</p> <p>5月12日 入山沢（三島町）で土石流が発生</p>
H 9年 2月27日	「福島県砂防ボランティアの会」を発足	4月 8日 壇ノ浦地区（柳津町）で地すべりが発生
H10年 2月10日 6月 1日 7月10日	<p>総会、警戒避難に関する講習会を開催</p> <p>蟹ヶ沢地区地すべり現地調査、防災アドバイス</p> <p>通常総会、役員会「福島県砂防ボランティア協会」に改称</p>	<p>8月26日 8月末豪雨：総合社会福祉施設「太陽の国」で土砂崩れが発生し5名が犠牲になる（県内死者11名、うち9名が土砂災害による） ※連続雨量は1,267mm（8/26～8/31）を記録</p>
H11年 6月17日 11月19日	<p>通常総会、役員会（役員改選等）</p> <p>講習会</p>	<p>6月29日 広島県で大規模な土砂災害が発生し、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」（以下、「土砂災害防止法」という）」制定のきっかけとなる。</p>
H12年 5月11日 6月15日	<p>老朽化施設の点検調査</p> <p>通常総会、役員会</p>	<p>7月14日 上浅貝3号と五反田（いわき市）でがけ崩れが発生</p>
H13年 5月11日 7月 6日	<p>老朽化施設の点検調査</p> <p>通常総会、役員会（役員改選等）</p>	<p>4月 1日 土砂災害防止法が施行</p> <p>9月11日 台風15号により馬場宿地区（石川町）でがけ崩れが発生</p> <p>10月11日 峰根地区（いわき市）で地すべりが発生</p>
H14年 2月15日 6月14日 7月19日	<p>通常総会、役員会</p> <p>既設砂防施設の点検調査（県中管内）</p> <p>通常総会、役員会</p>	<p>7月11日 台風6号により唐沢2号（下郷町）で土石流が発生</p> <p>10月 2日 台風21号によりフタ沢（南会津町）で土石流が発生</p>
H15年 6月23日 7月26日	<p>砂防関係施設の点検調査（喜多方管内）</p> <p>通常総会、役員会（規約改正、役員改選等）</p>	



年 月	砂防ボランティア活動内容	砂防における主な事象
H16年 7月 7日 7月30日	砂防関係施設の点検調査（会津若松管内） 通常総会、役員会	7月17日 新潟・福島・福井豪雨：仏の沢（西会津津町）で土石流発生 7月19日 新潟・福島・福井豪雨：新館地区（田村市）でがけ崩れ発生 10月21日 台風23号：下舟引（喜多方市）で地すべりが発生、坂シ内（川内村）でがけ崩れが発生
H17年 1月19日 6月29日 7月 8日 7月19日	講習会（活動報告等） 砂防関係施設の点検調査（県北管内） 役員会 通常総会（規約改正、役員改選等）	8月20日 前線による大雨：松原上沢とミヤノ沢（南会津町）で土石流が発生 12月27日 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等を県内で初めて指定（反町地区（二本松市）など21箇所）
H18年 2月 3日 5月27日 6月30日 7月11日 7月20日	講習会（活動報告等） 全国統一防災訓練「地域学習会」（いわき市）及び水防訓練への参加（南相馬市） 砂防関係施設の点検調査（相双管内） 役員会 通常総会	8月18日 前線による大雨：越巻地区（いわき市）で地すべりが発生 10月 7日 低気圧による大雨：千速地区（いわき市）でがけ崩れが発生
H19年 2月 9日 5月27日 6月22日 7月24日 8月 2日	講習会（活動報告、土砂災害警戒情報等） 土砂災害に対する防災訓練（いわき市） 砂防関係施設の点検調査（県南管内） 役員会 通常総会（規約改正、役員改選等）	2月 7日 融雪：牛兵衛沢（金山町）で土砂災害が発生（2/21に再崩壊が発生） 6月 1日 「土砂災害警戒情報」が県内で運用開始
H20年 2月13日 6月26日 8月 1日 10月11日 ～15日	講習会（活動報告、災関事業の進捗等） 砂防関係施設の点検調査（いわき管内） 通常総会、役員会（規約改正） 「第20回全国生涯学習フェスティバル」への参加	3月11日 「東北地方太平洋沖地震」土砂災害が66件発生し17名が犠牲となる 【緊急砂防等災害関連事業】12箇所 ➤地すべり 清水（福島市）、葉ノ木平（白河市）、上ノ台（いわき市） ➤急傾斜地 根田・三本松（白河市）、駒谷・寺前・朝日台1号・湯台堂2号・八ツ坂1号・自由ヶ丘2号（いわき市）、芦田塚（須賀川市）
H21年 2月18日 6月18日 7月 9日 7月15日 10月28日	講習会（活動報告、生涯学習フェス報告等） 砂防関係施設の点検調査（南会津管内） 役員会 通常総会（規約改正、役員改選等） 土砂災害危険箇所の点検調査（県北管内）	7月29～30日 「新潟・福島豪雨」土砂災害が33件発生（治山対応箇所を除く） 【緊急砂防等災害関連事業】8箇所 ➤土石流 二軒在家沢・宮ノ前沢・御東沢・沼頭沢・黒谷川（只見町）、糸沢・カシノ木沢・長野沢（南会津町）
H22年 2月 9日 7月28日 8月18日 ～26日	講習会（活動報告、講演等） 通常総会、役員会 土砂災害危険箇所の点検調査（県内全域）	
H23年 2月10日 3月31日 ～4月 6日 9月14日	講習会（活動報告、講演等） 東北地方太平洋沖地震に伴う土砂災害危険箇所緊急点検（県北, 県中, 県南, 会津若松, 喜多方管内） 通常総会、役員会（役員改選等）	

年 月

砂防ボランティア活動内容

砂防における主な事象

H24年 2月29日 講習会（活動報告、講演等）
7月31日 通常総会、役員会
10月25日 ふるさと安全たんけんスクール効果検証（只見）



H24年度講習会(福島テルサ)

H25年 2月14日 講習会（ふるさと安全たんけんスクール検証報告等）
6月10日 現地研修会（新地町、相馬市）
7月31日 通常総会、役員会（規約改正、役員改選等）
11月25日 「2013火山砂防フォーラム」（北塩原村）
～26日

8月 5日 前線による大雨：後沢川
（二本松市）で土石流が発生

H26年 2月13日 講習会（活動報告、火山砂防フォーラム報告等）
8月22日 通常総会、役員会

H27年 2月12日 講習会（活動報告、講演等）
3月11日 3.11ふくしま追悼復興祈念行事
8月 7日 通常総会、役員会（役員改選等）

9月 9日 関東・東北豪雨により下原
沢2号（南会津町）で土石流が発生

9月10日 中ノ内（伊達市）でがけ崩
れが発生



H27年度講習会(こむこむ)

H28年 2月26日 講習会（活動報告、講演等）
7月29日 通常総会、役員会
10月 3日 土砂災害危険箇所及び砂防施設点検（県北管内）

2. 主な活動記録

- 土砂災害危険箇所及び砂防施設点検（平成9年度より活動を開始）
- 東日本大震災時の緊急点検（平成22年度～23年度に実施）
- ふるさと安全たんけんスクール（平成15年度より活動を開始）

平成15年度

ふるさと安全たんけんスクール(県南建設管内)



大屋小(西郷村)



羽太小(白河市)

平成16年度

ふるさと安全たんけんスクール(県南建設管内)

ふるさと安全たんけんスクール
(土砂災害から身を守るために)

福島県県南建設事務所
福島県砂防ボランティア協会



パワーポイント資料より抜粋
社会福祉施設「太陽の国」
(西郷村)



大屋小(白河市)で学習した内容

- しぜんさいがいつてなあに？
- 土砂災害はどうやってふせぐの？
- 家のまわりのあぶない場所
- 建設事務所がおこなっている工事
- こんなときが赤信号
- わたしたちにできること

平成10年8月の洪水(白河市)



東日本大震災の緊急点検

- (1) 日 時 平成23年3月31日～4月6日
- (2) 場 所 東日本大震災で震度5強以上を観測した市町村（浜通りを除く）
- (3) 参加者 協会員19名（延べ32名）
- (4) 点検内容 全528箇所（土石流危険渓流:274箇所、急傾斜地崩壊危険箇所:247箇所、地すべり:7箇所）
支援事務所（県北、県中、県南、会津若松及び喜多方建設）
- (5) 点検結果 A評価：1箇所、B評価：17箇所、C評価510箇所

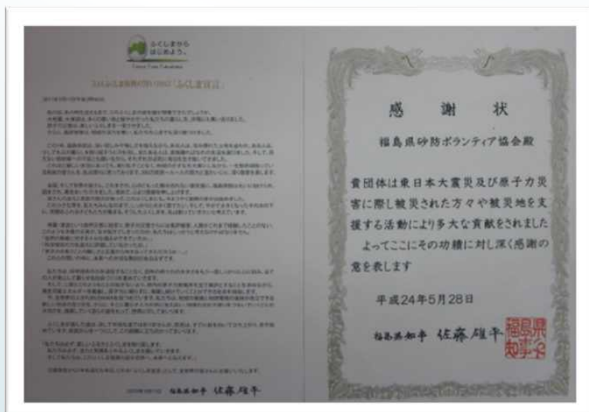
事務所名	市町村名 (旧市町村名)	点検箇所数				点検結果		
		土石流危険渓流	地すべり危険箇所	急傾斜地崩壊危険箇所	総合評価			
		A	B	C				
県北建設	二本松市 (旧東和町)	58	41	0	17	0	1	57
県中建設	須賀川市 (旧須賀川市)	59	25	3	31	0	6	53
	須賀川市 (旧岩瀬村)	10	5	0	5	0	0	10
県南建設	白河市 (旧白河市)	157	23	0	134	1	9	147
会津若松建設	会津若松市	126	84	3	39	0	1	125
	会津坂下町	33	28	1	4	0	0	33
	会津美里町 (旧新鶴村)	6	4	0	2	0	0	6
喜多方建設	喜多方市 (旧塩川町)	3	3	0	0	0	0	3
	磐梯町	7	7	0	0	0	0	7
	猪苗代町	69	54	0	15	0	0	69
南会津建設								
相双建設								
いわき建設								
合 計		528	274	7	247	1	17	510

A:直ちに応急対応するもの
B:再調査後対応を決めるもの
C:緊急性の低いもの

緊急点検のようす



知事から感謝状が贈呈されました



感 謝 状
福島県砂防ボランティア協会殿

貴団体は東日本大震災及び原子力災害に際し被災された方々や被災地を支援する活動により多大な貢献をされました

よってここにその功績に対し深く感謝の意を表します

平成24年5月28日
福島県知事 佐藤雄平

土砂災害危険箇所及び砂防施設点検(県北建設管内)

- (1) 日 時 平成28年10月3日
- (2) 参加者 砂防ボランティア協会員16名
県北建設、保原土木、二本松土木より各1名
- (3) 点検箇所 全8箇所(砂防:4箇所、急傾斜地:3箇所、地すべり:1箇所)
- (4) 実施内容

大規模な地震(震度5強以上)を想定し、4班に分かれて現地点検を行った(福島方面、保原方面、二本松方面)

平成23年の「東北地方太平洋沖地震に伴う緊急点検」以来、実に5年ぶりの現地点検となったが、改めて点検手法を再確認することができた。



赤川堰堤(福島市)



寺久保(川俣町)



本町(二本松市)



春日町(福島市)

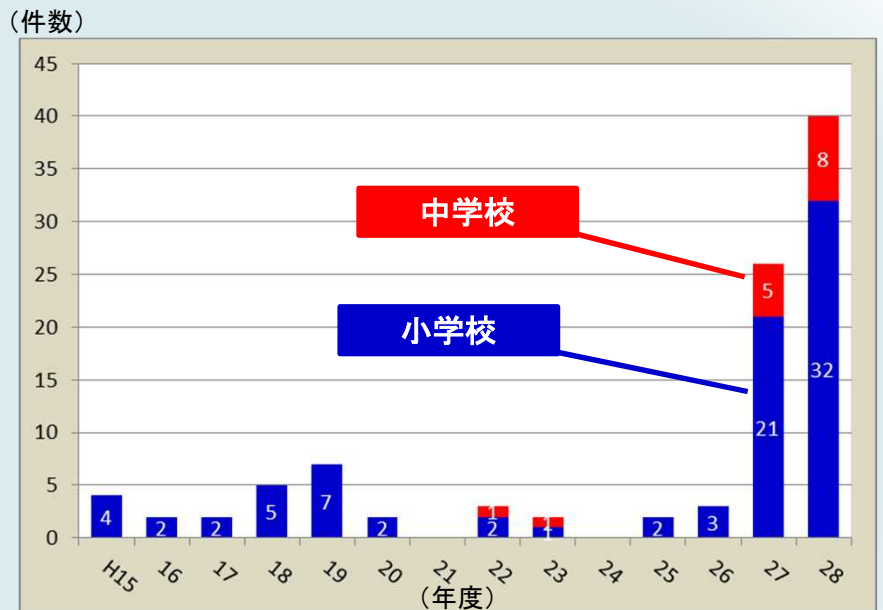
【今回、点検を実施した箇所】

- A班 赤川堰堤(福島市)、高清水地すべり(福島市)
- B班 関場川堰堤(伊達市)、寺久保(川俣町)
- C班 杉田川堰堤(大玉村)、本町(二本松市)
- D班 小川堰堤(福島市)、春日町(福島市)

ふるさと安全たんけんスクール活動実績

○実施数の推移

年度	数 (単位:校)		
	小学校	中学校	計
H15	4		4
16	2		2
17	2		2
18	5		5
19	7		7
20	2		2
21			0
22	2	1	3
23	1	1	2
24			0
25	2		2
26	3		3
27	21	5	26
28	32	8	40
計	83	15	98



※平成28年度の実施件数は、平成29年2月末現在。

県では、次世代を担う子どもたちに土砂災害による人的被害の防止と防災意識の高い人材を育成する目的で、平成15年度から次世代を担う子供達に『土砂災害から命を守る』出前講座が行われており、砂防ボランティア協会が実施する「ふるさと安全たんけんスクール」もその重要な役割を担っています。

平成26年度に砂防課と義務教育課が連携した取り組みの一環として、県内小中学校への案内周知や意向調査を行ったところ、平成27年度より実績件数が急増し、今後も多くの小中学校で出前講座が開催される予定となっています。

より学習効果の高い「ふるさと安全たんけんスクール」の実施を目指して、更なる内容の充実や開催する建設事務所との連携を深めながら、この取り組みを継続していく必要があります。

土砂災害模型(土石流、がけ崩れ、地すべり)



DVD映像、砂防副読本(福島県版)

DVDタイトル
「知っておこう！土砂災害」
～命を守るため、わたしたちにもできること～



福島県公式YouTubeに掲載
<https://www.youtube.com/user/PrefFukushima>
 ※福島県ホームページからも閲覧可能

第4章 会員からのことば

1. 歴代会長より

砂防ボランティア協会 20周年を祝う



小松 恭雄
初代会長

在任：平成 9～16年

当協会が20周年を迎えられましたこと、誠にお目出度く心よりお祝い申し上げます。砂防ボランティアは阪神淡路大震災を契機として始まりました。震災直後から関西地方に住んでおられる、直轄砂防工事事務所のOBの方と兵庫県砂防課OBの方々が、自発的に土砂災害の危険箇所や既設の砂防設備の点検と、新たに危険箇所が発生していないか調査を行ったことからであります。特に六甲砂防工事事務所の砂防事業は内務省時代からの永い歴史があり、地元にとりましても不可欠な存在と聞いておりました。

顧みますと、本県の「砂防ボランティア協会」を立ち上げる当時の砂防課は、雨宮宏文課長、佐藤清一補佐、加藤秀明係長さんの時でした。平成8年も年末の慌ただしい時期でしたが、砂防ボランティアの全国的な動きを受けて、急遽、砂防課OBの橋内望光さん、長澤功介さん、玉應孝郎さん、等と杉妻会館に於いて協議致しましたところ、皆さんには直ちにその趣旨に賛同して戴きました。その後、砂防課OB全員に連絡致しました。然し後日、当時の志摩土木部長に呼び出しを受けて、設立に当たってその内容は定かではありませんが、色々と質問を受けたことを覚えております。設立当日には出席全員で協議してから、その場で設立総会に切り替えて発足を決定した次第です。当初は全員14名での発足でした。全国的に見ても会員の少ない組織でしたが、現在は会員78名と増えて参りました。本当に嬉しい限りであり、正に隔世の感があります。改めて会員皆さんの「ボランティア精神」に敬意を表するとともに、日頃からボランティア活動のご苦勞に感謝致しております。

平成9年4月、人事異動により齋藤志郎課長になりましたが、早速、各建設事務所に「砂防ボランティア協会」を設立したこと、並びに協力をお願いする旨を通知していただきました。5月には、県の役員会、続いて「砂防ボランティア全国連絡協議会」が開催されましたので出席致しました。

毎年6月は「全国土砂災害防止月間」であります。この年は、大阪府の日本万国博覧会記念公園内の「万国記念館」において、6月1日に「第15回土砂災害防止月間推進の集い」が開催され、2日には初めて全国の砂防ボランティア協会が集結して「砂防ボランティア元年」の宣言文が力強く読み上げられました。この大会には長澤功介さんと二人で出席致しました。そこでは「ボランティアとは」「砂防ボランティアの定義」「砂防ボランティアの活動」などについて、改めて説明を受け意見交換等をして参りました。その内容については、9月に入ってから全国連絡協議会が作成した「砂防ボランティア手帖」が届き会員に配付することが出来ました。

当県の「砂防ボランティア協会」の年間スケジュールとしては、大凡そ、2月に役員会の打合せ、これは「砂防ボランティア全国連絡協議会」が毎年5月と11月に行われますので参加すること、「斜面判定士認定書」登録のための講習会を開催すること、その年の計画と、実施したこと。更には翌年の計画予定等を協議すること。6月の「土砂災害防止月間推進の集い」に参加者を決めること。6、7月には総会、更に各建設事務所、或いは土木事務所に出向いて、砂防設備の点検、土砂災害の危険箇所調査、を適宜に行うこと等でした。

毎年、各県の「砂防ボランティア協会」では独自の企画や、活動計画を樹てることに苦慮したものでした。幸い当協会の活動のオリジナルは、県南建設から提案されました「ふるさと安全たんけんスクール」を全国に先駆けて実施し継続していることです。これは出前講座として好評を得ております。

さて、昨年も4月には、一時19万人も避難者を出したと言われる、熊本地震が発生し大被害を受けました。毎年、全国的には土石流等、地すべり、がけ崩れ、が発生してその被害は甚大であります、その都度被災地に思いを馳せ胸を痛めております。私は当協会設立以来、大阪府の大会から平成17年の総会まで会長でした。大阪府に次いで新潟県の糸魚川市、その後富山市、宇都宮市、岐阜市、山形県の上山市、静岡市と開催された「土砂災害防止月間推進の集い」に参加し、被災現場の工事中或いは完成後等を見学して参りました。この間には、本県に於いても大きな災害が発生しておりますが、特に、平成12年には県南建設管内の隈戸川災害関連事業がありました。10月には鳥取西部地震が発生しております。更に平成16年には9月に本県、新潟、福井、の3県が豪雨による激甚災害の指定を受けております。10月23日には、あの衝撃的なハイパーレスキュー隊が出動した「新潟中越地震」が発生いたしました。その際に緊急に役員会を開いて現地調査の派遣を協議しました。然し派遣要請に応えられず、今でも悔やまれ残念に思っております。その被害額は11月に3294億円と発表されました。更に12月には、スマトラ沖にM=9.0の大地震が発生し大津波となってその被害は、翌年の1月に、死者、行方不明者合わせて21万3600人と報道されております。平成17年、春の全国連絡協議会と鹿児島市で開催の「土砂災害防止月間推進の集い」には、齋藤志郎さんに出席して戴きました。特に本県の「ふるさと安全たんけんスクール」について全国へPRするように求められたとの事でした。7月19日の総会において会長を辞任いたし玉應孝郎さんに引き継ぎを致した次第です。

昨今、日本は災害多発時代を迎えつつあり、南海トラフ地震は50年以内の確率と言われ、さらに「海拔ゼロメートル地帯」がある首都の直下地震による首都水没が憂慮されるとの新聞報道もありました。

いづれにしても、本当に長い間お世話様になり有難く厚くお礼申し上げます。辞任後も総会には出来るだけ参加するように努めております。第一原発の事故後、被爆県となりました本県の「東日本大震災」の復旧復興に、懸命に取り組んでおられる現役の皆さんのご苦労は如何ばかりかとお察し申し上げます。

「福島県砂防ボランティア協会」の成人式をお祝い申しあげますとともに、今後益々のご発展と、併せて会員皆様のご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げます。

砂防ボランティア協会の思い出



玉 應 孝 郎
2 代会長
在任：平成17～20年

本年で当協会が20周年を迎えましたこと御祝申し上げます。

平成8年の暮れだったと思いますが、小松恭雄さんから声をかけられ、長澤功介さん、橋内望光さん等砂防課OBが5～6人集まりました。雨宮砂防課長から砂防ボランティア協会設立についての話があったとの事でした。

平成7年の阪神淡路大震災において、多くの砂防技術者が全国各地から集まり、自発的に現地の砂防施設や危険箇所の調査点検を実施し、その情報が二次災害防止に寄与したとのことから全国的に砂防ボランティアの組織化の気運が高まっており、本県においても対応してほしいと云う事でありました。

本県でも多くの砂防施設や土砂災害危険箇所を抱えており、各建設事務所や土木事務所の管理上の苦勞を少しでも我々が自発的に調査点検しその情報が役に立つならばと出席者全員がその趣旨に賛同し、会員はとりあえず砂防課OBを中心にとという事にいたし、その後OB全員に連絡し、平成9年2月27日に十数人が出席して総会が開催され、設立目的、事業内容、会員資格、会費等が審議され、小松恭雄さんを会長に、事務局は砂防課内に御願いし、福島県砂防ボランティア協会が設立されました。

少人数の団体でありましたが、各建設事務所が管理する砂防施設や土砂災害危険箇所等の調査点検を行い、その情報を提供しアドバイスを行って来ました。

平成10年8月26日の県南地方の大災害後には、被災状況と砂防施設の調査点検を行い、土石流の状況と砂防ダムの貯砂効果を確認して行政側に報告致しました。

また、毎年六月は全国土砂災害防止月間ですが、小松会長に同行し新潟県糸魚川市、富山市、岐阜市等で開催された「土砂災害防止月間推進の集い」に参加し、被災現場の視察をして参りました。平成13年4月には、土砂災害防止法が施行され、ソフト面からの対策も行うことになり、平成15年から土砂災害防止の啓発を目的に県内の小中学校を対象にした出前講座「ふるさと安全たんけんスクール」を実施することになりました。当初はなかなか学校との調整も難しく、市町村の教育委員会にも働きかけたがあまり関心を得られず、年間数校の実施がやっとでした。建設事務所職員と会員の皆様には大変ご苦勞されたことと思いますが、この取り組み

は、砂防ボランティア全国連絡協議会からも高く評価され、全国的にも注目されることになりました。

最近では、多くの小中学校から受講の希望があり、大勢の小中学生が土砂災害等の自然災害から身を守る知識を習得し、これが地域住民をも守るための活動になっていると思います。

近頃は全国の各地で自然災害が多発しており、砂防ボランティア協会の会員の皆様、現役の方々の益々のご活躍が期待されます。

私が小松恭雄会長から後を継いでからは、小松会長がリーダーシップを発揮して作成した年間スケジュールに基づいて、年間の事業を行って来ました。会員の皆様、また現役の砂防課の方々には大変お世話になりました。特に毎年6月に開催される「土砂災害防止月間推進の集い」が鳥取県、石川県、秋田県等で開催され参加しました際、齋藤喜士雄さん、齋藤志郎さんにそれぞれ同行していただき大変お世話をかけました。

会員の少ない団体ではありましたが、現在では80名に近い会員となり喜ばしいことでもあります。いずれにしても平成17年から平成20年の4年間、会員の方々砂防課の皆さんにあらためて御礼申し上げますと共に総会時に行われている会員と砂防課員との絆を深める懇親会も20年続いており、今後も大切にしたいものであります。

砂防ボランティア協会 20周年を祝う



渡 邊 一 也

3 代会長

在任：平成21～24年

砂防ボランティア協会が、設立20周年を迎えられたことを、会員皆様と共に祝い申し上げます。

私が、初めて当協会と関わったのは、平成16年度に県南建設事務所が行った「ふるさと安全たんけんスクール」のパワーポイント作成を、お手伝いした時です。スクールでは、講師役も務めました。それまで小学生と触れ合う機会はなく、緊張したのを覚えています。生徒たちが、メモを手に熱心に聞く態度に感激しました。

平成18年度は、県中建設事務所が開催した「たんけんスクール」に参加しました。教室でビデオとパワーポイントを使い自然災害や砂防事業について説明した後、現場見学に出ました。生徒たちは、普段は立ち入ることの出来ない、工事中のダムに嬉々として上りました。職員から「砂防ダムの役割は、上流のくずれやすい土石を止めることと下流に住んでいる人たちと家屋を守ることです」と説明を受け、ダムの大切さを理解してくれました。

建設事務所が、請負業者さんの協力を頂き、土砂を盛り立て斜面を造り、発泡スチロールで作ったダムや家屋を張り付け、上部から水を流し土石流を発生させました。生徒たちは、家屋が流される様子を見て、歓声をあげ見入っていました。簡単な模型でも効果は抜群でした。現場の広場には測量機器や重機をそろえこれも体験してもらいました。

スクールに参加した生徒さんの感想文を読ませていただくと、現場見学の楽しさと砂防ダムのありがたさが綴られていました、自然災害の恐ろしさを学ぶには「講義を聞いて、現場に行き、模型実験を見る」体験学習が効果的です。安全対策や費用負担など難しいことはありますが、砂防課・建設事務所・建設業界・協会が協力し、現場をセットした「たんけんスクール」に取り組んでほしいと思います。

当協会は、毎年各建設事務所の砂防施設の点検を実施し、会員がチェックリストを用意して施設の経年変化による損傷劣化を調査点検し、補修等の提案をしました。砂防OBにとって自ら関わった堰堤を訪れ、クラック一つない状態を確認し、安堵したこともありました。

平成21年10月に、初めての試みとして県北建設事務所管内の土石流危険溪流個所の点検調査を行いました。職員と協会会員がグループを編成し調査にあたりました。NHKはじめ民放テレビ局が、点検状況を撮影し、その映像が夕方のニュース番組で放映され、土石流の発生原因や恐ろしさと施設の役割を伝えることが出来ました。

対策工の施設整備は、時間と費用がかかるため、数年間隔で土砂災害危険箇所点検を実施し、話題を提供すれば、住民の注意を喚起して、警戒避難を促すことにもなります。

平成24年度の総会において「たんけんスクール」で学んだことが、どのように活かされているかを検証してはどうかと、会員から提案がありました。

平成23年7月豪雨により只見町に大きな被害が発生しました。平成19年に、只見小学校と朝日小学校で「たんけんスクール」が行われ、出席していた子供たちも災害を経験しました。只見町をフィールドに、被災を受けた彼らが、学習経験をどのように生かしたか、あわせて施工した砂防施設の効果を検証するため、編集委員を選び作業に取り掛かりました。関係された皆様の協力を頂き、平成25年7月「ふるさと安全たんけんスクールの検証報告」をまとめることが出来ました。

安全スクールの参加者へのアンケートと聞き取り調査によって学習体験が息づいていることに、意を強くしました。砂防ダムの効果は、堆砂状況から明らかにされ、砂防事業の重要性が確認されました。パンフレットを作成し公表したことによって、当協会の活動をアピールすることが出来、ボランティアとして真摯に取り組んできた会員の励みになりました。

東日本大震災直後に会員が、土砂災害危険箇所の緊急点検を実施し、協会が福島県知事から感謝状を授与されたのも印象に残ります。

砂防ボランティア協会は、親睦が目的ではありません。土砂災害から地域住民を守るための活動を行っています。その運営は、会員の会費ですべて賄っています。さらに充実した活動を目指し、多くの会員が参加できる工夫も必要です。

当協会は、土木部OBが誇りたいボランティア活動をしています。益々の発展と会員皆様のご活躍をお祈りします。事務局として、当協会を支えて頂いている砂防課の皆様に、深甚な感謝とお礼を申し上げます。